

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和2年7月分）

### 【製造業】生産の落ち込みが続いている

○製造業は、5月の鉱工業生産指数では、主な産業の全てで低下となった。ヒアリングにおいては、受注が大幅に減少しており今後の見通しが立っていないとの声があった一方で、6月を底として7月は前年同月比で80%程度まで生産が戻ったなど、回復基調にあるという声も聞かれた。

### 【地場産業】生産の落ち込みが続いている

○地場産業は、5月の鉱工業生産指数では、主な地場産業の全てで低下となった。ヒアリングにおいては、これまでは新型コロナウイルスの影響前に受注した仕事があったが、その仕事も尽き、これから厳しい状況になるとの声があった。

### 【設備投資】落ち込みが長期化している

○設備投資は、6月の金属工作機械受注額について、前年同月を下回った。前年同月を下回ったのは、国内向けは19ヶ月連続、海外向けは20ヶ月連続となった。ヒアリングにおいては、計画していた設備投資がペンディングになるなど設備投資意欲は低いとの声が聞かれた。

### 【個人消費】業態によって消費動向に差が見られる

○個人消費は、小売店の6月の販売額について、コンビニでは落ち込みが続いたが、ホームセンターやドラッグストア等の販売が増加し、全体では前年同月比で5ヶ月連続の増加となった。ヒアリングにおいては、春先の自粛の反動で消費が伸びていると思われるとの声が多くあった。

### 【観光】新型コロナウイルスの影響が大きい

○観光は、前年と比較し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による外出自粛ムードもあり、観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。インバウンドは、ほぼゼロに近い数字となった。ヒアリングにおいては、県の宿泊キャンペーンを多くの方にご利用いただいている一方で、終了後に不安を感じる声があった。

### 【資金繰り】資金繰り確保のため積極的に制度融資が活用されている

○企業の資金繰りは、6月の制度融資実績で、前月に続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からは、手元の流動性を確保したい企業が多く、運転資金の調達意欲が旺盛であるとの声が聞かれた。

### 【雇用】急激に雇用環境が悪化している

○雇用面は、6月の有効求人倍率は、1.27倍と73ヶ月ぶりに1.2倍台の水準にまで低下した。ヒアリングにおいて、来年度はコロナ禍で余剰となった優秀な人材を採用できるのではないかと期待しているとの声が聞かれたが、人員に過剰感を感じるとの声も多くあった。

### 【景気動向】

景気動向指数（一致指数）は3ヶ月連続で悪化したが、中小企業の景況感は7ヶ月ぶりに改善した。